

震災のあと、改憲のまえ

「不安」の正体をかんがえる

わたしたちは生きもので、いのちはどれも一つずつの大事さを持っている。そのことを、震災であれほど思い知ったはずなのに、経済が最優先され、顧みられないいのちが無数にある。被災地の、福島の、困難の渦中にある人の声は飲み込まれ、生活保護受給者は非難される。対外危機の「怖さ」が刷り込まれ、中国人等への悪意が広がる。

何かがおかしいと感じる。このままでいいと思っっているわけでもない。けれど、声高な強い言葉に気後れし、言葉を失ってしまう。不安なのに、友達に話を切り出す勇気も出ずに、毎日が過ぎ去っていく。感じる違和感や不安が何なのか、じっくり考える時間がほしい。

そんな思いから、長年、貧困問題を抱える一人ひとりに向き合い、社会構造の問題、基本的人権の問題として訴えつづけている宇都宮健児さんにお話をうかがい、「不安」の正体をさぐる。世界は複雑で、簡単に「答え」は出ないけれど、だからこそ、考えつづけるために…。どうぞご参加ください。

■日時:2013年6月9日(日) 午後1時30分～4時30分

(開場:午後1時15分)

■お話し:宇都宮健児さん(弁護士・反貧困ネットワーク代表)

1946年、愛媛県生まれ。日本弁護士連合会前会長。「弱者」の側に立ち、悪徳商法被害や多重債務問題、貧困問題にいち早く取り組んできた。「全国ヤミ金融対策会議」代表幹事、「反貧困ネットワーク」代表、「年越し派遣村」名誉村長などをつとめる。

『13歳から学ぶ日本の貧困 日本をむしばむ“貧困”が60分で見えてくる』(青志社, 2009年)、『反貧困の学校 貧困をどう伝えるか、どう学ぶか』(共編著, 明石書店, 2008年)など、著書・編著書多数。



■ところ:三鷹市公会堂 さんさん館(旧別館) 多目的会議室 AB

三鷹市野崎1-1-1/TEL: 0422-45-1151 ※行き方は裏面をご参照ください

■参加費無料・定員130名(予約不要, 先着順)

主催:三鷹市/共催:NPO 法人中国帰国者の会 問合せ TEL:03-5347-2636(杉並市民法律事務所内)

会場：三鷹市公会堂 さんさん館（旧「三鷹市公会堂 別館」）

（三鷹市野崎1-1-1／TEL: 0422-45-1151）

■JR 総武線・中央線「三鷹」駅（南口）

7 番バス乗り場 から 小田急バス<鷹 54>系統(仙川行き、晃華学園東行き)に乗車。
〔乗車時間約 10 分〕

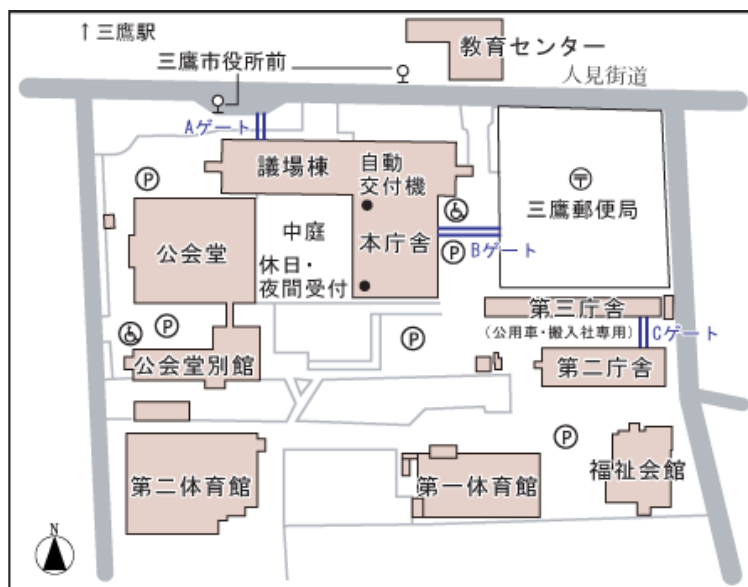
■JR 総武線・中央線、京王井の頭線「吉祥寺」駅（公園口）

4 番バス乗り場 から 小田急バス<吉 06>系統(調布駅北口 [野崎経由] 行き)
8 番バス乗り場 から 小田急バスまたは京王バス<吉 14>系統(調布駅北口 [航研前経由] 行き)
に乗車。〔乗車時間約 15 分〕

■京王線「調布」駅（北口）

13 番バス乗り場から 小田急バス<吉 06>系統(吉祥寺駅 [野崎経由] 行き)
14 番バス乗り場から 小田急バスまたは京王バス<吉 14>系統(吉祥寺駅 [航研前経由] 行き)
に乗車。〔乗車時間約 25 分〕

⇒いずれも「三鷹市役所前」下車すぐ。 ※地図上の「公会堂別館」が「さんさん館」。



★三鷹市中国残留邦人等地域生活支援事業★

三鷹市では NPO 法人中国帰国者の会に委託し、「中国残留邦人」等の支援の要となる地域住民理解を深めるため、映画上映や写真展、講演会や当事者の体験を語る会などを開催しています。また、当事者同士の日常生活の相談・交流の場として、毎月 1 回「憩いの家」を開催しています。

★「中国残留邦人」問題★

戦前戦中の日本では、多くの日本人が「満洲」(中国東北部)に送り出されました。敗戦により取り残された「中国残留邦人」は、長年、個人責任とされ、帰国できませんでした。長い年月を経て帰国しても、言葉の壁や生活基盤の無さから、やむなく生活保護を受ける人も多くいました。多くの国賠訴訟を経て 2008 年に新支援法が施行されたものの、子ども等に対して保障がなく、新たな問題が生み出されています。